

## セント・ルカ セミナー

---



Evangelical Free Church(Cross Lake,Minnesota)

# 第1回セント・ルカ セミナー

日時：1994年6月26日

場所：講演会 セント・ルカ ホール

懇親会 神和苑 (別府市、鉄輪温泉)

講師：Dr.P.S.Brinsden ( Director of Bourn Hall Clinic, Cambridge, UK )

- 演題
- 1, The history of IVE-ET at Bourn Hall Clinic.
  - 2, The clinical aspects of embryo cryopreservation.
  - 3, Ovarian stimulation for assisted conception treatment.

座長：宮川勇生先生 (大分医科大学教授)

参加者：31名



セミナー会場



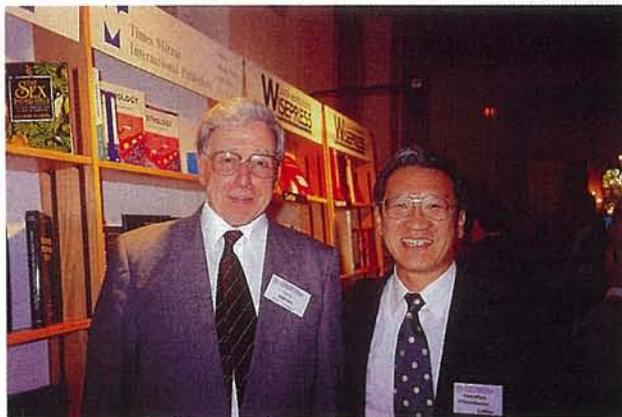
宮川勇生教授、Dr.Brinsdenと



セント・ルカのスタッフと



懇親会



Dr.Edwardsと (ウィーン)



Bourn Hall Clinicにて

## 第2回セント・ルカ セミナー

日 時：1995年6月10～11日

場 所：セミナー(11日) セント・ルカ ホール

懇親会 (10日) 「ほり川」(大分市都町)

講 師：高橋克彦先生 (広島HARTクリニック)

演題 「妊娠困難例に対するARTの工夫」

加藤 修先生 (加藤レディースクリニック)

演題 「不妊外来におけるnew ARTの現状」

参加者：35名



加藤 修先生



高橋克彦先生



懇親会

# 第3回セント・ルカ セミナー

日時：1996年8月24～25日

場所：講演会(25日) セント・ルカ ホール  
懇親会(24日) ホテル白菊 (別府市)

講師：斉藤英和先生 (山形大学産婦人科助教授)

演題 「ARTにおける問題点」

Dr.K.Y.Cha (CHA General Hospital, Seoul, KOREA)

演題 「CHA総合病院におけるARTについて」

座長：宮川勇生先生 (大分医科大学教授)

参加者：40名



Dr.K.Y.Cha



斉藤英和先生



セミナー会場



榎原講師  
齊藤先生  
Dr. Cha  
宇津宮  
宮川教授



懇親会

## 第4回セント・ルカ セミナー

日時：1997年8月23～24日

場所：講演会 セント・ルカ ホール

懇親会 別府パストラル（別府市）

講師：鈴木秋悦先生（WHOヒト生殖プログラム科学技術アドバイザー）

演題 「生殖工学から生殖医療への展開」

品川信良先生（弘前大学名誉教授、セミナー「医療と社会」代表）

演題 「生殖医療における生命倫理と世界の情勢」

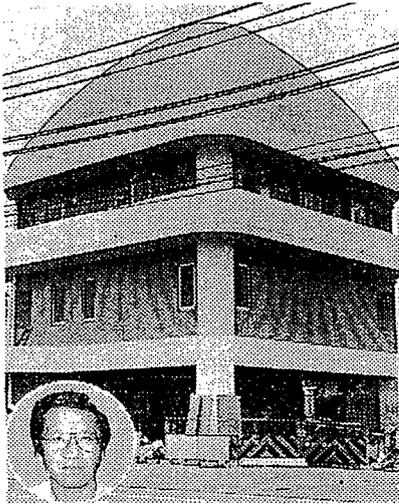
参加者：45名

# 新聞記事より

## 不妊症治療専門のクリニック

来月、大分市  
にオーブン

県下では初めての不妊症治療専門のクリニックが六月、大分市にオープンする。最先端医療の「顕微授精」にも取り組む予定で、不妊は十一床。



来月開院する不妊症治療専門クリニック。円内は宇津宮医師（大分市津守富岡）

に悩む夫婦にとっては朗報といえそうだ。

宇津宮部長は、前の勤務先の九大生医研で不妊症の治療を手がけ、これまで生医研で約四千組、県病で五百組ほどの治療をしてきた。人工授精や排卵誘発剤による治療で、その成果は生医研で二五％、県病では三七％が妊娠、出産に成功した。普通、不妊症の治療成績は二〇％といわれていることからすると良い成績。

クリニックでは、それらの治療法に加え、体外受精・胚移植や、体外受精を一步進めた顕微授精を行う。一般に、夫婦十組のうち一組は子供に恵まれないといわれるが、そうした夫婦にとって専門治療施設の誕生は大いに歓迎されそう

平成4年(1992年)5月12日 火曜日  
大分合同新聞朝刊

## 体外受精に成功

大分市の産婦人科 開業医では県下初

大分市津守富岡五組、七「宮隆史院長」が体外受精に「ルト・ルカ産婦人科(宇津)」成功した。同市内の三十代

の女性で六日、妊娠反応と超音波検査で妊娠が確認された。順調にいけば、来年六月に赤ちゃんが誕生する。県下では大分医大産科婦人科で体外受精が行われているが、開業医で成功は初めて。

宇津宮院長は県立病院などで不妊症の治療を手掛けた。今年六月、体外受精などを行う不妊症の専門クリニックを開業した。

体外受精はこれまで延べ二十数人に行い、うち一例が今回の成功となった。引き続き現在、十人近くに体外受精治療が試みられている。宇津宮院長は「顕微授精など新しい治療も行った

平成4年(1992年)10月7日 水曜日  
大分合同新聞朝刊

# 開院1年 大分市のセント・ルカ産婦人科

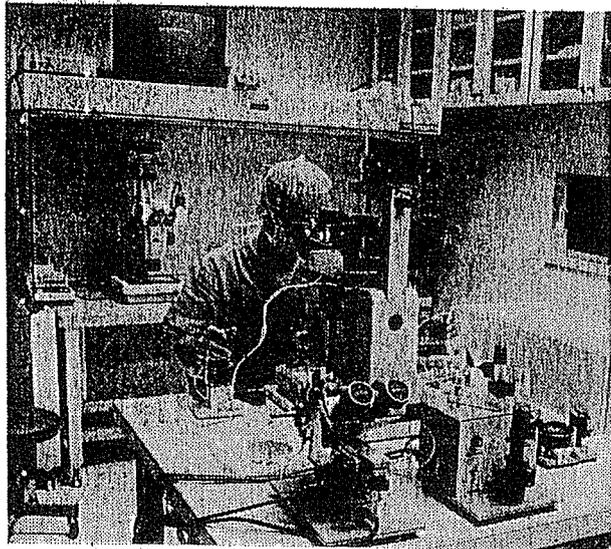
大分市津守富岡五組、セント・ルカ産婦人科(宇津宮隆史院長)は県内では珍しい不妊症治療の専門医院。昨年六月の開院からこの五月末まで、一年間に不妊外来を訪れた患者は女性千三百三十八人、男性三百七十八人となった。九州各県、遠くは和歌山などから



宇津宮院長

も患者がきている。不妊症の治療を受けたのは二百三十八人、このうち百八十八人(一五%)が妊娠に成功した。特にそれらのうち、体外受精・胚(はい)移植を行ったのは四十五例、より簡単なG-I-F-T法(卵管内配位子移植)が十四例、この中では体外受精・胚移植は七例(一六%)が妊娠に成功、G-I-F-T法では同様三例(二%)が成功している。体外受精

## 不妊症治療…県外からも



不妊症の治療、開院半年間1,000人に

### 多胎妊娠例の低率誇る

の妊娠成功例では、近畿なを便うため多胎妊娠が一母の赤ちゃんが誕生するしほばみられるが、この会九州支部総会では、同医院はこれまで三例(二%)、院から三題の研究発表を行った。宇津宮院長は「勝つ

てよい成績と賞している。一題は外来を訪れた不妊症患者に実施したアンケート結果で、体外受精について女性八七%、男性でも六八%が「積極的希望」あるいは必要であれば希望と答えていた。二題目は腹膜鏡検査の結

### 顕微授精の準備も着々

果について、卵巣(らんそう)から卵巣液(らんそうえき)を出して、精子(せいし)が卵管(らんぱん)に入る、その入り口の部位(ぶい)の大きさが小さい例に非妊娠例が多いことが分かった。他の一題は、男性の精子の数が少ない例に、精液中に白血球や細菌の多い例があること、これは県立病院と共同研究を進めている。不妊は男性の側に原因があることが少なくなく、精子については「数、濃度、前形率のほかに、精子の運動の仕方もみていきたい」と宇津宮院長は語っている。体外受精については、顕微授精の準備も行っている。

平成5年(1993年)6月7日 月曜日  
大分合同新聞夕刊

### 顕微授精に成功

大分市の産婦人科で

県下初

大分市津守富岡五組、セ入する方法。セント・ルカ産婦人科の宇津宮隆史院長は四日、「顕微授精に成功した」と語った。授精を試み、そのうち県下では初めて。九州では北に住む夫三十七歳、妻三十九歳、北九州市などで成功している妊婦が確認された。この夫

体外受精の一つの顕微授精は八年半、不妊が続いて精は、精子の数が少なかった。 「男性が原因の不妊は結構は、動きが悪いなど男性構多い。治療は難しかったが、これで自信がいった」今回、成功したのは顕微と宇津宮院長。鏡を見ながら行う方法のうち、卵子を包む膜と卵子の産婦人科の体外受精成功は問の、困卵(くわんらん)に、五十例(うち十三例は出産ピペットを介して精子を注込み)となった。

平成6年(1994年)4月5日  
大分合同新聞

## 男たちがおかしい



精液や不妊症についての講演があった県臨床衛生検査技師会の研修会

県臨床衛生検査技師会の一般検査部門の研修会がこのほど大分市、ダイコーで開かれた。同市、セント・ルカ産婦人科の宇津宮隆史院長が「精液検査と生殖医学における最近の動向」を講演した。不妊症の治療を専門にしている同院長は、その中で「精子が悪くなっている」と指摘した。

### 精子の数減少 「奇形」は増加

宇津宮院長が指摘 セント・ルカ産婦人科

宇津宮院長は、不妊症の相談に訪れる夫婦について、男性の精子の検査を行っているその結果から、かつて九大温研(当時)に勤務していたとき調べた結果では、精子異常は三五%だった。それが最近の当院の調査では、六二%にもなった」と講演した。

同院長によると、昔は精子異常の基準が厳しく、精液1cc中の精子の数は五千万、奇形精子は二〇%以下でないといけなかった。ところが、それが今は、精子の数は、奇形は七〇%あってもよいなど、基準が甘くなった。「それ

でいて六%という数字は、昔の基準に当てはめると、ほぼ百分が、異常に増えているのではないかと同院長が指摘している。

「男がおかしくなっている」とも指摘されており、農薬をはじめとする化学物質の関与が取りざたされている。

宇津宮院長は、以前、エベレスト登山隊の隊員を検査したことがあり、登山前と比べると、下山後は精子の数が減り、奇形が多くなり、運動能力も落ちていたことから、「そうした肉体的ストレスのほかにも、スナックや化学物質など、いろいろなものが複合して、精子が悪くなっているのではないかと考察している」と述べた。

「正常な女性が一回の排卵で妊娠する確率は一八・三五%とされており、それと比べて体外受精、顕微授精を合わせた二〇%の成功率は遜色(そんしょく)がなく、自然妊娠に匹敵している」と語られた。

## 無精子症男性に朗報

### 精巣上体から採取、妊娠

不妊治療を専門にしている大分市津守富岡五組、セント・ルカ産婦人科の宇津宮隆史院長(右)は十一日、「無精子症と診断された男

子の精巣上体から精子を採取し、顕微授精で妊娠に成功した。また奇形(ひずみ)の精子から精液を採取し、同様に顕微授精で



宇津宮隆史院長

院長は特に前者について「無精子症と言われ、子供に恵まれない男性も、これで希望が持てるのでは」と語っている。

不妊は男子に原因があることがしばしばあるが、無精子症や乏精子症と知られた男子でも、検査をすると精巣には精子が形成されている例がかなりあることが、精方副部長の研究で分かっている。

今回、妊娠に成功したのは、三回目の治療で今月一日、妊娠していることが分

平成7年(1995年)2月12日 日曜日  
大分合同新聞朝刊

平成9年(1997年)6月23日 月曜日  
大分合同新聞朝刊